

表紙

第7期鹿追町総合計画

(表紙の裏白)

ごあいさつ



鹿追町は本年、開町 100 年を迎えるに至りました。

先人たちの不断の努力と開拓精神により、大雪山系の南麓に広がる、肥沃で豊かな農業地帯が築かれ、今ではバイオマスによる資源循環型農業の確立や豊かな自然環境を活かした観光の展開、幼少中高一環教育など特色ある教育の導入、そして 2013（平成 25）年には十勝で唯一のジオパークとして認定を受けるなど、“唯一無二のまちづくり”を進めています。

また、町民のみなさんの声を聞き、協力を得ながら、開町以来、まちづくりの普遍的な目標である“住み良いまちづくり”に努めており、昨年実施したアンケートでは、8割を超える方から「住み良い」との評価をいただくことができました。

この「第7期鹿追町総合計画」では、これまでの取り組みを継承しつつ、新たな目標に挑戦していくため、「愛・夢・笑顔 あふれる未来へ ～支え合うまち♡しかおい～」を新しいテーマに掲げました。このテーマは、鹿追高校生を含む延べ参加人数 200 人を超える「まちづくりワークショップ」において提案されたもので、「みんなが生き生きと暮らし続けられるために、町民が支え合い、次の 100 年も“愛・夢・笑顔”があふれる元気なまちになって欲しい」などの願いが込められています。

鹿追町開町 100 年という節目に、そして、令和という新しい時代に、この「第7期鹿追町総合計画」のもと、町民と行政が一体となり、老若男女問わずすべての町民に「愛・夢・笑顔」があふれるまちづくりを追求してまいりたいと考えております。

最後に本計画の策定にあたり、貴重なご意見・ご提言をいただいた委員各位をはじめ、多くの町民のみなさまに心から感謝とお礼を申し上げます。

2020（令和2）年3月

鹿追町長 喜井 知己

も く じ

I 基本構想

第1章 はじめに

1 計画の趣旨	2
2 計画の性格と役割	3
3 計画の構成と期間	4

第2章 まちづくりの課題と可能性を考える

1 鹿追町の現状	5
2 鹿追町を取り巻く状況	12
3 鹿追町のまちづくりの課題と可能性	17

第3章 めざす鹿追町の姿

1 鹿追町の将来像	19
2 将来の指標	20
3 めざす方向	21
4 計画の体系	24

II 基本計画

重点プロジェクト

1 「その先へ」プロジェクト	28
2 「魅力最大化」プロジェクト	29
3 「つながり」プロジェクト	29

第1章 子育てを支え合い、多世代がつながり、心がふれあう福祉をめざして

1 健康づくり	30
2 医療	32
3 医療保険、介護保険	34
4 子育て支援	38
5 障がい者福祉	42
6 高齢者福祉	44
7 地域福祉	46

第2章 お互いの価値観を認め合い、確かな自分づくりを育む教育をめざして

1 学校教育	48
2 家庭教育	52
3 学習活動（少年・青年・成人・高齢者）	54
4 学習活動（公民館分館）	58
5 芸術文化	60
6 芸術文化（神田日勝記念美術館・文化財）	62
7 スポーツ	64
8 図書館、読書	66

第3章 「ひと・もの・こと」がつながり、豊かで魅力的な産業をめざして

1 農業（経営・基盤整備）	70
2 農業（安心・安全な農業）	74
3 農業（持続可能な農業）	76
4 林業	78
5 商工業	80
6 水産業	84
7 観光	86
8 ジオパーク	88

第4章 地域がつながり、環境を守り、安心して暮らせるまちをめざして

1 エネルギー	90
2 土地利用	92
3 花、公園	94
4 環境美化、公害、畜犬	96
5 ごみ処理、リサイクル	98
6 墓地、葬斎場	100
7 住宅	102
8 水道、下水道	104
9 防災	106
10 交通安全、防犯	108
11 消防、救急	110
12 公共交通	114
13 道路	116
14 情報通信	118
15 労働力の確保	120

第5章 共に考え、共に創るまちをめざして

1 交流	122
2 コミュニティ	124
3 男女共同参画	126
4 移住、定住	128
5 瓜幕地域の振興	130
6 自衛隊	132
7 行政運営	134
8 財政運営	136

Ⅲ 資料編

1 策定経過	138
2 総合計画審議会名簿	140
3 総合計画策定会議名簿	141
4 諮問・答申	142
5 町民アンケート結果	144
6 まちづくりワークショップ開催まとめ	148

鹿追町町民憲章（昭和 45 年 8 月 24 日制定）

まえがき

1. わたくしたちは、遠く大雪の峰をのぞみ、平和の象徴めおと山のすそのにひろがる豊穡の地鹿追町の住民です。
2. わたくしたちは、開町 50 周年をむかえ、昔をしのび、将来をより明るく、より豊かな町をつくるため、ねがいをこめて、この憲章をさだめます。

1. 明るく、あたたかい心もち、互いにたすけあい、魅力ある鹿追の町をつくりましょう。
1. 人づくりは、町づくりのことに思いをいたし、青少年の教育につとめましょう。
1. 人を愛し、自然を愛し、静かな美しい鹿追の町をつくりましょう。
1. 豊かな鹿追町をつくるため、知恵と力を出し合い、互いに手をつないで、仕事にはげみましょう。
1. 健康でたくましい開拓精神をうけつぎ、文化の高い、輝やく未来に夢をもち、つねに進歩する町民になりましょう。

町徽章（昭和 24 年 7 月 10 日制定）

中央に鹿追の頭文字を配し、本町の主産物たる馬鈴薯の花で町民を象し、これを囲む円で太陽を形どり、協力の輪（和）を表示しています。



鹿追町旗（昭和 45 年 8 月 24 日制定）

町旗の中心に太陽と鹿の角を配し、鹿の角で鹿追町を表し、太陽で進歩する本町の未来を示しています。白色は東大雪連峰の白雪と町民の清澄さを、緑色（上部）は本町をとりまく緑林と町民の温厚さを、青色（下部）は然別湖と町民の崇高な精神を表しています。



町の象徴



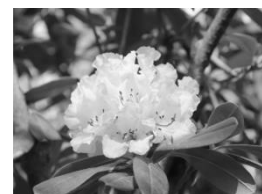
町の木「モミジ」

四季を通じて情緒があり、特に紅葉した美しさは情熱的です。



町の鳥「カッコウ」

開拓の昔から、春を告げる鳥、また、農作業にも種を播く時期を知らせる鳥として、親しまれています。



町の花「シャクナゲ」

鹿追町にも多く植生する高山植物で、寒冷に耐え、花がきれいで強くたくましく、町民からも広く愛されています。

I 基本構想





第1章 はじめに

1 計画の趣旨

鹿追町では、これまで、まちづくりの全分野に関わる計画「総合計画」を策定し、まちづくりを計画的に進めています。

この総合計画は、国の法律ですべての自治体に策定が義務づけられていましたが、2011（平成 23）年に法律が改正され、策定の義務はなくなりました。しかしながら、多くの自治体は、計画策定を継続しており、本町においても現在の計画「第6期鹿追町総合計画」に代わる、新たな総合計画を策定することになりました。

「第6期鹿追町総合計画」によるまちづくりを進めている間、日本や鹿追町を取り巻く環境は、めまぐるしく変化を続けてきました。社会経済情勢の変化をはじめ、情報通信技術や国際化などが進み、身近な生活の利便性が高まり、交流のあり方などが変化していく一方で、自然災害やテロの発生などを通して、安全や安心を改めて考える機会が増えています。以前から懸念されていた人口減少・少子高齢化はさらに進み、国は「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、地方創生を掲げた取り組みを様々な分野で進めています。このような状況の変化によって生まれる課題や可能性を捉え、まちづくりを進めていくことが、今まで以上に求められています。

また、平成の時代が幕を下ろし、「明日への希望と共に、日本人一人ひとりが大きな花を咲かせる」との願いが込められた「令和」という新しい時代が始まり、本町は、2020（令和2）年に「開町100年」という、新たな節目を迎えます。

新たな時代とともに、複雑・多様化する課題へ対応するため、町民と行政がまちづくりの将来像を共有し、ともに知恵を出し合いながら、「次の100年」への飛躍に向けたまちづくりの指針を示すために、この「第7期鹿追町総合計画」を策定しました。

策定にあたっては、「第6期鹿追町総合計画」を検証したうえで、課題や可能性について検討し、これから8年間でめざすべき方向性や取り組みをまとめました。また、鹿追町まちづくり基本条例に基づき、小学校5年生以上を対象とした「全町民アンケート調査」を実施したほか、各種団体の代表者や無作為抽出で選出された町民のみなさんと「まちづくりワークショップ」を行うなど、多くの方から声を頂きました。それらの声をできるだけ取り入れたこの計画をもとに、鹿追町の新たなまちづくりを町民のみなさんとともに進めていくこととします。

2 計画の性格と役割

この計画は次のような役割を持っています。

(1) まちづくりの最上位計画です

まちづくりの各分野では、より具体的な内容を示した個別計画を策定しますが、この総合計画は、町全体の方向性や各分野の基本的な取り組み方針などを示しており、本町のまちづくりを進めていくうえでの最も上位に位置する計画です。

(2) 町全体で共有する計画です

行政（町役場）が主体となって進めていくもののほか、町民や各種団体、関係機関などと連携して進めていくもの、企業や他の自治体とともに進めていくものなど、様々な内容が含まれています。特に町民のみなさんの理解と協力が必要な内容が多く、庁内だけでなく、町全体で共有していく計画です。

(3) 鹿追町のまちづくり意志を対外的に示す計画です

国や北海道、民間などの関係機関との調整が必要な際には、鹿追町がどのようなまちづくりを考え、進めていこうとしているのか、「鹿追町のまちづくり意志」を示す計画になります。



3 計画の構成と期間

「第7期鹿追町総合計画」は「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」で構成されています。それぞれが示す範囲と期間は、次のとおりです。

(1) 基本構想

鹿追町まちづくり基本条例第31条の規定に基づいて、鹿追町がめざすまちづくりの将来像やめざす方向などを示しています。

計画期間は2020（令和2）年度から2027（令和9）年度までの8年間とします。

(2) 基本計画

基本構想に掲げる本町の将来像や目標を実現・達成するための施策について、分野ごとに示しています。

計画期間は、基本構想と同じく、2020（令和2）年度から2027（令和9）年度までの8年間としますが、前期・後期各4年間とし、前期が終了後、後期分を見直すこととします。

また、中間見直しが行われる4年間で実行する戦略的且つ実効性の高い施策を「重点プロジェクト」として位置づけます。

(3) 実施計画

基本計画で体系化した施策を進めるうえで必要な事業を示しています。

計画期間は4年間とし、毎年見直しを行うこととします。

なお、個別計画に位置づけられている事業と整合性を持つこととします。





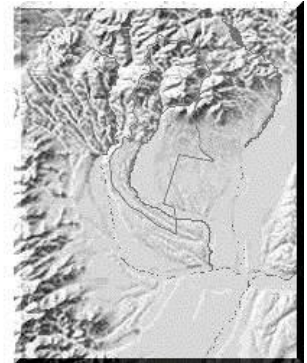
第2章 まちづくりの課題と可能性を考える

1 鹿追町の現状

(1) 立地や自然条件など

本町は北海道の中心、大雪山国立公園の南麓で、北緯 43 度 00 分 30 秒～43 度 23 分 28 秒、東経 142 度 55 分 35 秒～143 度 09 分 06 秒に位置し、東西 17.7km、南北 39.8km、面積は 404.70km² で十勝総面積の 3.7%を占めています。

大雪山系の山並みを水源とする然別川が町内を南北に貫流し、鹿追の母なる川として町民に親しまれています。北高南低の扇状に丘陵地帯が広がり、農耕適地となっています。また、気象的には積雪寒冷地帯にあり、割合晴天が多く、降水量・積雪量が少ないものの寒暖の差は大きなものがあります。



(2) 歴史や沿革

鹿追という名前は、アイヌ語の「クテク・ウシ（柵を結び、弓を仕掛け、鹿を猟せし所）」を和訳して呼ばれた地名に由来しています。

1921（大正 10）年に、音更村（当時）から分村して以来、開拓者の入植などにより年々人口が増加するなか、1959（昭和 34）年 9 月 1 日に町制施行となり、「鹿追町」が誕生しました。

町制施行後から今日に至るまでの沿革をまとめると、次のようになります。

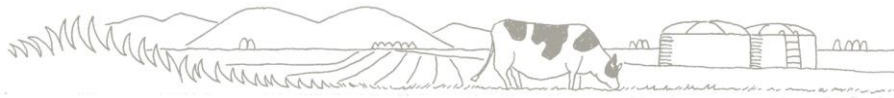


町制施行後の主な出来事

年	出来事
1959 (昭和 34)	<ul style="list-style-type: none"> ■町制施行 (9月1日十勝管内 14 番目) ■鹿追町観光協会設立 ■西上幌内地区飲料水供給施設完成 ■第 1 回鹿追町競ばん馬競争開催
1960 (昭和 35)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査 (人口 10,448 人) ■鹿追町商工会設立 ■鹿追文化連盟設立 ■鹿追体育連盟設立
1961 (昭和 36)	<ul style="list-style-type: none"> ■オシヨロコマ人工心化事業開始
1962 (昭和 37)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追町自衛隊協力会設立
1963 (昭和 38)	<ul style="list-style-type: none"> ■全自動式有線放送電話開通 ■幌内地区飲料水供給施設完成 ■鹿追～菅野温泉間バス運行開始 ■上幌内バス開通
1964 (昭和 39)	<ul style="list-style-type: none"> ■然別国有林 280ha 焼失 ■通院用患者輸送車運行開始 ■下幌内地区飲料水供給施設完成 ■交通安全推進協議会発足 ■拓殖バス上幌内線開通
1965 (昭和 40)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施 (人口 9,089 人) ■鹿追市街地道路舗装工事完成 ■へき地保育所設置 (鹿追ほか 9ヶ所)
1966 (昭和 41)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追地域こども会発足 (町内 22 地区) ■鹿追高等学校校舎新築落成
1967 (昭和 42)	<ul style="list-style-type: none"> ■西上幌内小学校閉校 ■然別湖～糠平温泉間道路開通 ■鹿追町社会福祉会館新築落成 ■東瓜幕・上幌内郵便局舎新築落成 ■高台地区簡易水道完成
1968 (昭和 43)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿美小学校・中学校閉校 ■スクールバス配置 ■拓殖鉄道全線廃止 ■国営畑地帯総合土地改良事業着工 ■然別湖・オシヨロコマ生息地道天然記念物指定 ■瓜幕老人憩いの家完成 ■農業構造改善事業開始 ■心配ごと相談所開設
1969 (昭和 44)	<ul style="list-style-type: none"> ■新然別小学校閉校 ■瓜幕小学校校舎新築落成 ■鹿追保育所完成 ■ごみ焼却炉完成 ■畑総事業畑地かんがい工事着工 ■帯広開発建設部鹿追地域農業開発事務所設置
1970 (昭和 45)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施 (人口 7,883 人) ■北十勝消防組合発足・鹿追消防署設置 ■上幌内中学校閉校 ■鹿追武道館開設 ■鹿追町民憲章・鹿追町旗制定 ■鹿追町開基 50 周年記念式典挙行 ■鹿追町酪農振興協議会設立
1971 (昭和 46)	<ul style="list-style-type: none"> ■国保病院落成 ■鹿追農業協同組合・農業会館落成 ■行政無線放送開始 ■又ブカウシ白寿大学開講 ■町営牧場草地日本一賞受賞 ■鹿追統計事務所閉鎖
1972 (昭和 47)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追町立幼稚園開設 ■母子保健センター完成 ■鹿追市街簡易水道完成 ■瓜幕消防会館落成 ■第 1 回白蛇姫まつり開催 ■帯広鹿追会発足
1973 (昭和 48)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追市街地番改正「クテクウシ」廃止 ■幌内小学校閉校 ■瓜幕幼稚園開設 ■瓜幕水泳プール開設 ■東瓜幕食料検査所閉鎖 ■母子健康センター開設
1974 (昭和 49)	<ul style="list-style-type: none"> ■役場新庁舎完成 ■鹿追老人福祉センター完成 ■北鹿追小学校閉校 ■瓜幕農民研修所開所
1975 (昭和 50)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施 (人口 6,929 人) ■鹿追陶芸センター (鹿追焼) 完成 ■役場コミュニティ広場完成



年	出来事
1976 (昭和 51)	<ul style="list-style-type: none"> ■第1期鹿追町総合計画策定 ■鹿追町振興公社設立 ■鹿追高等学校全日制普通科 2 間口決定 (定時制廃止) ■笹川老人寿の家完成
1977 (昭和 52)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追町土地改良区解散 ■札幌鹿追会発足 ■鹿追町農業振興協議会発足 ■東瓜幕消防会館落成 ■第 1 回農民大運動会開催 ■鹿追歯科医院開設
1978 (昭和 53)	<ul style="list-style-type: none"> ■通明中学校閉校 ■鹿追自然ランドオープン ■総合研修センター完成 ■鹿追高等学校道立移管
1979 (昭和 54)	<ul style="list-style-type: none"> ■総合スポーツセンター完成 ■瓜幕郵便局舎新築落成 ■鹿追交通安全少年団誕生
1980 (昭和 55)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施 (人口 6,744 人) ■鹿追町立特別養護老人ホーム開設 ■笹川児童会館完成 ■鹿追中学校校舎新築落成 ■過疎地域指定
1981 (昭和 56)	<ul style="list-style-type: none"> ■第2期鹿追町総合計画策定 ■コミュニティセンター完成 ■鹿追町開基以来未曾有の豪雨災害
1982 (昭和 57)	<ul style="list-style-type: none"> ■上幌内小学校校舎新築落成 ■第 1 回婦人祭り開催 ■第 1 回町民雪像まつり開催 ■カナダ・ストニブレイン町視察研修 (第 1 回北方圏視察団派遣)
1983 (昭和 58)	<ul style="list-style-type: none"> ■第 1 回然別湖コタンまつり開催 ■鹿追物産協会設立 ■寿勤労会発足 ■中央公園野外ステージ完成
1984 (昭和 59)	<ul style="list-style-type: none"> ■防災行政無線放送開始 ■鹿追町議会だより創刊 ■農事組合再編成 ■国営畑地帯総合土地改良パイロット事業完了
1985 (昭和 60)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施 (人口 6,480 人) ■通明小学校校舎落成 ■カナダ・ストニブレイン町と姉妹提携締結 ■町指定「花 (しゃくなげ)・木 (もみじ)・鳥 (かっこう)」選定
1986 (昭和 61)	<ul style="list-style-type: none"> ■第3期鹿追町総合計画策定 ■瓜幕中学校校舎・講堂新築落成 ■カナダ・ストニブレイン町から親善使節来町 ■第 1 回鹿追町健康まつり開催 ■鹿追町社会福祉協議会法人化
1988 (昭和 63)	<ul style="list-style-type: none"> ■笹川小学校校舎完成 ■東京鹿追会発足 ■鹿追町塾年会発足 ■瓜幕小中学校自然体験留学制度開始
1989 (平成元)	<ul style="list-style-type: none"> ■笹川小学校講堂完成 ■鹿追公園「白蛇殿」完成 ■保健推進協議会発足 ■ふれあい給食サービス開始 ■下水道 (農業集落排水) 事業供用開始
1990 (平成 2)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施 (人口 6,307 人) ■「ノーザン・ヒューマンランド・しかおい (年輪の村構想推進事業)」樹立 ■鹿追町開基 70 年記念式典挙行 ■クテクウシゆうほ村発足 ■瓜幕屋内ゲートボール場落成 ■鹿追健康公園完成 ■ライディングパークオープン ■鹿追小学校校舎新築落成
1991 (平成 3)	<ul style="list-style-type: none"> ■第4期鹿追町総合計画策定 ■第 1 回ふるさと産業まつり開催 ■さわやか交流館開館 ■ワーキングセンター完成 ■専任酪農ヘルパー制度発足 ■鹿追幼稚園舎落成



年	出 来 事
1992 (平成4)	<ul style="list-style-type: none"> ■アイスミルク「高原のほほえみ」発売 ■第1回ホーストレッキング開催 ■神田日勝記念館友の会誕生 ■「防犯のまち」宣言 ■ライディングパーク内パークゴルフ場完成
1993 (平成5)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追町民ホールオープン ■神田日勝記念館開館 ■トリムセンターオープン ■瓜幕小学校講堂完成 ■瓜幕自然体験留学センターオープン ■第1回馬耕忌開催 ■然別湖畔トンネル開通 ■幼角酒「気快」販売 ■然別湖オショロコマ遊漁再解禁 ■国道274号線へ昇格
1994 (平成6)	<ul style="list-style-type: none"> ■まちづくり合同記念式典(ノーザン・ヒューマンランド・しかおい計画の完成) ■国道274号昇格 ■鹿追町開基74周年記念 ■「健康づくりの町」宣言 ■然別湖畔地区公共下水道供用開始
1995 (平成7)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施(人口6,089人) ■いちごワイン「然別湖物語」発売 ■第1回蕪壱祭開催 ■第1回馬の絵作品展開催 ■鹿追高等学校存続危機突破町民の集い開催 ■瓜幕市街農業集落排水(下水道)供用開始 ■十字街商店街道歩道拡幅工事完了
1996 (平成8)	<ul style="list-style-type: none"> ■北海道・黒竜江省友好提携10周年記念事業「友好の翼」外町民代表団中国訪問 ■東京鹿追会設立10周年記念ふるさと訪問ツアー ■瓜幕中学校創立50周年記念式典
1997 (平成9)	<ul style="list-style-type: none"> ■第1回十勝エンデュランス競技会開催 ■交通安全を考える町民の集い ■長崎県鹿町町姉妹提携締結 ■第1回そばまつり開催 ■鹿追中学校開校50周年記念式典 ■鹿追消防署新庁舎落成
1998 (平成10)	<ul style="list-style-type: none"> ■全国町村会「町づくり優良町村表彰」受賞 ■鹿追町農業協同組合創立50周年記念式典 ■第6回公共建築賞優秀賞北海道地区表彰(鹿追町民ホール・神田日勝記念館)受賞 ■健康温水プールしかおいオープン ■ピュアモルトクラブハウスオープン記念式典 ■北海道消防操作法訓練大会鹿追消防団優勝 ■健康温水プールしかおいオープン
1999 (平成11)	<ul style="list-style-type: none"> ■交通事故死ゼロ1,000日達成 ■サマーフェスティバルinしかおい開催 ■鹿追町自衛隊退職者雇用協議会設立 ■鹿町町少年少女友好訪問団来町
2000 (平成12)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施(人口5,910人) ■北海道赤レンガ建築賞(ピュアモルトクラブハウス)受賞 ■ウリマックホール落成記念式典 ■女性1日議会 ■北海道フラワーマスター鹿追地区連絡協議会設立 ■鹿追町01農業塾開講 ■鹿追町開町80周年記念式典 ■「環境美化」宣言 ■鹿追駐屯地の維持拡充を求める町民大会 ■第1回全日本エンデュランス競技大会
2001 (平成13)	<ul style="list-style-type: none"> ■第5期鹿追町総合計画策定 ■下鹿追広域総合交流促進施設特産品特売所(クックガルデン)オープン ■鹿追町特産品開発研究会設立 ■第3回国際花サミットフォーラム「花のまちづくり」 ■鹿追町から交通事故と犯罪をなくす町民集会 ■第1回町民生き生きパークゴルフ大会開催 ■子育て交流館オープン ■鹿追高等学校新校舎完成



年	出 来 事
2002 (平成 14)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追町女性団体連絡協議会創立 50 年記念式典 ■情報ステーション「花ぼっぼ」開設 ■鹿追町国際交流協会設立 ■こども議会開催 ■鹿追町振興公社解散 ■第 7 回ふるさと・いきいき村づくり全国サミット北海道鹿追町大会開催 ■鹿追高等学校創立 50 周年・新校舎落成記念式典 ■東瓜幕郵便局閉局
2003 (平成 15)	<ul style="list-style-type: none"> ■女性一日町長（助役、収入役、教育長）実施 ■第 1 回しかおい花フェスタ開催 ■新得町・鹿追町任意合併協議会設立 ■道の駅「しかおい」指定 ■一般廃棄物再生利用施設「ひまわりセンター」オープン
2004 (平成 16)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追等地域集会施設（メープルホール）落成 ■道の駅しかおい直売所開始 ■介護老人保健施設「もみじの里」新築落成式 ■観光に関する協定締結（札幌国際大学） ■花植える COME ツアー開催 ■新得町・鹿追町任意合併協議会解散 ■環境についての基本的なきまり条例制定
2005 (平成 17)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施（人口 5,876 人） ■交通事故死ゼロ 1,000 日達成 ■交通安全と防犯を考える町民集会開催 ■花のまちづくり国際コンクール「5 つの花（最高ランク）」受賞 ■道の駅「うりまく」指定
2006 (平成 18)	<ul style="list-style-type: none"> ■道の駅うりまく直売所オープン ■相互協力協定締結（北海道教育大学釧路校） ■第 1 回フラワータウン in 鹿追パークゴルフ大会開催 ■鹿追町衛生協力会創立 50 周年記念式典 ■防犯等に関する情報受発信協定締結 ■地域包括支援センター開設
2007 (平成 19)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追町の明日を考える町民会議発足 ■陸上自衛隊鹿追駐屯地創立 50 周年記念行事 ■第 1 回花の絵コンテスト開催 ■鹿追町経済観光交流館（ほほえみプラザ）完成 ■アートコレクション福原記念館開館 ■町営テニスコート開設
2008 (平成 20)	<ul style="list-style-type: none"> ■子育て支援センターオープン ■鹿追町農業振興センター完成 ■鹿追町小中高一貫教育全国研究大会開催 ■ガーデンアイランド北海道ミーティング in しかおい開催
2009 (平成 21)	<ul style="list-style-type: none"> ■うりまく夢創造館オープン ■陸上自衛隊鹿追駐屯地の維持拡充を求める総決起大会開催 ■鹿追町制施行 50 年記念式典 ■暴力団員による鹿追町公営住宅等の使用制限に関する協定締結（新得警察署） ■災害応急対策支援に関する協定締結（町建設業協会） ■防災協定締結（帯広地方隊友会鹿追支部） ■長崎県鹿町町姉妹提携解消 ■鹿追町まちづくり基本条例制定 ■鹿追町議会基本条例制定
2010 (平成 22)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施（人口 5,702 人） ■鹿追町開町 90 年記念式典 ■第 4 回姉妹自治体交流表彰（ストニィブレイン町との交流） ■第 1 回水鉄砲選手権大会開催 ■第 14 回ふるさとイベント大賞（しかりべつ湖コタン） ■農業農村整備優良地区コンクール農村振興部門（環境保全センター） ■鹿追小学校開校 100 周年記念式典 ■鹿追町土地開発公社解散 ■鹿追町文化連盟創立 50 周年記念式典
2011 (平成 23)	<ul style="list-style-type: none"> ■第 6 期鹿追町総合計画策定 ■第 50 回鹿追町競ばん馬競技大会開催 ■瓜幕駅舎記念広場オープニング ■定住自立圏形成協定締結



年	出 来 事
2012 (平成 24)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追町地域間交流推進協議会設立 ■鹿追町子ども宿泊体験交流協議会設立 ■しかおいジオパーク推進協議会設立 ■災害時における石油類燃料の供給等に関する協定締結(帯広地方石油業協同組合) ■環太平洋連携協定(TPP)問題を考える鹿追集会 ■東京都台東区八町内小学生派遣 ■陸上自衛隊鹿追駐屯地の維持拡充を求める総決起大会 ■全国過疎地域自立促進連盟会長賞(環境保全センター)受賞 ■鹿追駐在所新築開所 ■防災協定締結(北海道コカ・コーラ)
2013 (平成 25)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追町特産品ファンクラブ設立総会 ■第1回しかおい健康マラソン大会開催 ■笹川小学校開校100周年記念式典 ■チョウザメ研究会設立 ■「とち鹿追ジオパーク」日本ジオパーク認定 ■地域防災委員初会議 ■まちなか女性会議(町議会主催) ■大規模災害時等における派遣隊員の留守家族支援に関する協定締結(陸上自衛隊鹿追駐屯地)
2014 (平成 26)	<ul style="list-style-type: none"> ■北海道鹿追高等学校看護科誘致期成会設立 ■プロ野球北海道日本ハムファイターズ鹿追後援会設立 ■鹿追町白蛇姫舞保存会后援会設立 ■マンゴー栽培ハウス完成 ■環境保全センターバイオガス余剰熱供給施設・研究棟完成 ■中瓜幕集会所改築 ■障害者グループホームしかおい「すばる」開所 ■牛の混合飼料製造施設「鹿追町TMRセンター」竣工 ■オーストラリア訪問団派遣
2015 (平成 27)	<ul style="list-style-type: none"> ■国勢調査実施(人口5,542人) ■然別湖冬季遊漁(氷上釣り)試験的解禁 ■河川維持管理に伴い発生する刈草に関する協定締結(帯広開発建設部帯広河川事務所) ■鹿追幼稚園閉園 ■鹿追保育園閉園 ■鹿追町立認定こども園しかおい開園 ■鹿追町総合防災演習 ■鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略、鹿追町人口ビジョン2015策定 ■鹿追町老人クラブ連合会創立50周年記念式典 ■北海道グリーンツーリズムフォーラム in しかおい ■上幌内小学校開校100周年記念式典 ■移住体験住宅完成
2016 (平成 28)	<ul style="list-style-type: none"> ■瓜幕バイオガスプラント落成記念式典 ■鹿追町災害対策本部設置(台風10号被害による) ■しかおい水素ファーム開所式 ■鹿追東町歯科医院開院 ■東京都台東区との連携協定締結
2017 (平成 29)	<ul style="list-style-type: none"> ■鹿追GEOP(ジオ)パークゴルフ場オープン記念トライアルマッチ開催 ■とち鹿追ジオパークが日本ジオパークに再認定 ■交流センターみないるオープニングセレモニー・記念大会 ■瓜幕バイオ余剰熱利用ハウス野菜栽培施設完成
2018 (平成 30)	<ul style="list-style-type: none"> ■みんなでわいわい!パンケーキまつり初開催 ■(株)十勝鹿追そばオープン ■鹿追展望の丘公園に多目的ハウス新設 ■瓜幕小学校開校100周年記念式典
2019 (令和元)	<ul style="list-style-type: none"> ■国際交流センター平成館オープン ■鹿追町酪農振興会創立50周年記念式典 ■鹿追町立認定こども園しかおい新園舎落成



(3) 産業

本町の基幹産業は農業と観光です。

農業は、肥沃な農地を活用する国内有数の畑作・酪農を中心とした大規模農業を展開しており、200億円を超える農業生産額の実績を誇っています。

また、中鹿追地区と瓜幕地区にはバイオガスプラントがあり、家畜ふん尿から消化液肥の製造、バイオガスを活用した発電、車両用燃料、余剰熱を活用したハウス栽培、水素エネルギーなど、新時代の資源リサイクルの推進が図られています。

観光は、雄大な大雪山国立公園の自然に恵まれ、標高 800m に豊かな水を湛える神秘の湖「然別湖」を中心として、年間 70 万人を超える観光客が訪れています。そのほか、町内に咲き誇る花や 2 か所ある美術館も重要な観光資源となっています。

また、本町は、2013（平成 25）年に十勝で唯一のジオパーク※（とち鹿追ジオパーク）として認定され、2017（平成 29）年には再認定を受けました。「火山と凍れ（しばれ）が育む命の物語」をテーマに、新たな観光資源として価値を創出しています。



※「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」を組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球を学び、丸ごと楽しむことができる場所のことです。



2 鹿追町を取り巻く状況

(1) 人口の数や構成の変化

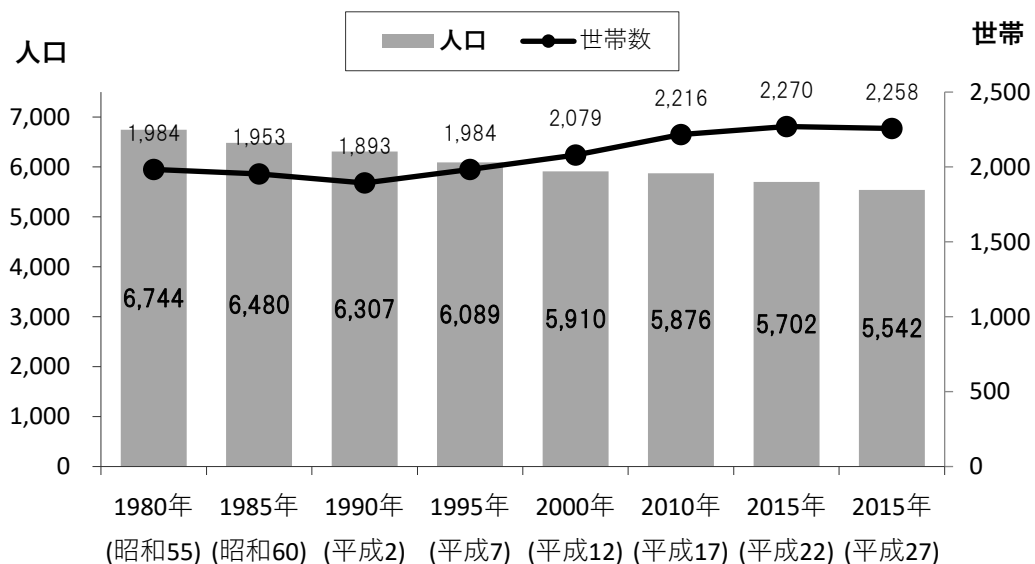
わが国は、2008（平成 20）年をピークに人口減少に転じ、このままでは 2060 年頃には総人口 1 億人を下回ると推計*されています。65 歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合（高齢化率）は 3 割近くを占め、その割合は徐々に高まっています。

一方、合計特殊出生率は 2005（平成 17）年に 1.26 を記録したあと上昇傾向となり、2015（平成 27）年には 1.45 まで上昇しましたが、その後横ばいが続いており、人口減少とともに、少子化、高齢化が進んでいます。

本町では、1960（昭和 35）年の国勢調査で 1,970 世帯、人口 10,448 人を数えるまでになりましたが、その後の離農などにより減少が進み、2015（平成 27）年の国勢調査では人口が 5,542 人となっています。一方、世帯数は 2,258 世帯と増加傾向にあり、核家族や単身（若年、独居）世帯の増加により、1 世帯あたりの人員数の減少が進んでいます。

このようななか、一定量の人口を確保し続けていくことが不可欠であることを再認識し、「今住んでいる町民を減少させない」「新たな人口の増加を図っていく」ことを双方から考え、取り組んでいくことが求められています。

人口と世帯数の推移（国勢調査）



*平成 27 年の国勢調査をふまえ、国立社会保障・人口問題研究所は 1 億人を下回る時期を 2053 年、老年人口（高齢者数）のピークは 2042 年と推計しています。



(2) 情報化の進展

我が国では、1990年代以降インターネットが急速に普及し、世界中から様々な情報を即座に入手することが可能となりました。近年は、身の回りのものがインターネットとつながり、ものが自動で動いたり、遠隔で操作することができるほか、コンピュータの処理能力やビッグデータの解析技術の向上、A I（人工知能）なども日々進展しており、様々な分野で利便性が高まっています。このような情報通信技術を用いて今ある社会的課題を解決するため、我が国では「超スマート社会（Society5.0 社会）」※をめざすと提唱しています。

本町では、「搾乳ロボット」や「自動操舵トラクター」などの導入を推進しており、JA鹿追町では立命館大学との協力により、A I（人工知能）によるキャベツ自動収穫ロボットの開発に取り組むなど、基幹産業である農業を中心に先進技術を活用した取り組みを進めています。

このようななか、情報通信技術を活用できる人材の育成を行うとともに、急速に発達する先進技術をあらゆる分野に生かし、本町が抱える課題を解決、改善していくことが求められています。



※狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会のことです。



(3) 国際化（グローバル化）の進展

我が国では、外国人観光客が急増しており、2018（平成30）年には3,000万人を超えました。2020（令和2）年に開催される東京オリンピック・パラリンピックにも、多くの外国人観光客の訪問が予測されています。

外国人労働者も増加しており、2019（令和元）年に施行された「改正出入国管理法」により、さらに増加するとみられています。

また、情報網や交通網の国際化も進んでおり、海外との行き来や「もの」や情報のやりとりについても、より利便性が高まっています。

一方、日本の市場を国外に売り込むチャンスは広がっていますが、海外との競争が激化したり、感染症のリスクなどが高まっています。

本町では、北方圏派遣事業を縁にカナダ・アルバータ州ストニープレイン町と姉妹提携を結び国際交流を行っています。鹿追高校生短期留学をはじめ両町の交流人口はこれまで2,000人を超え、2020年（令和2）年には35周年を迎えました。産業面では、国外から農業研修生を受入れることが増え、観光面でも、多くの外国人観光客が本町を訪れています。

このようななか、本町に住んだり、訪れたりする外国人は今後も増加が予測されるなか、日本人と同様に安全、安心に過ごせるよう、国際化に対応した環境整備や世界をフィールドに活躍ができる人材育成などを進めていくことが必要です。



(4) 環境の変動

世界では、地球的な規模で様々な環境問題が引き起こされています。世界的な気候変動により、異常多雨・少雨、海水面の上昇など地球規模での自然環境の変化が急速に進みつつあることが指摘されています。2015（平成 27）年には地球温暖化防止のための新たな国際的枠組みである「パリ協定」、国連では 17 のゴール（目標）と 169 のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択され、地球環境を守り、多様性と包摂性のある社会の実現に向けて各国が取り組んでいます。

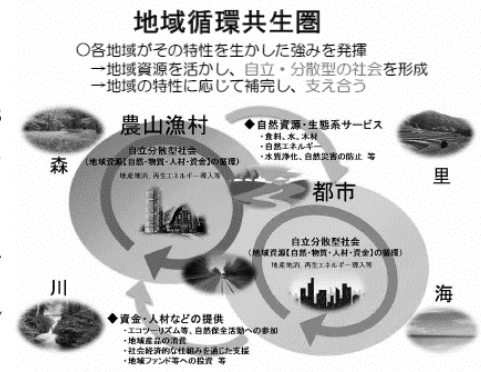
我が国においても、台風や大雨などが大規模な自然災害の発生が増加するなか、温室効果ガスの排出や廃棄物の削減に取り組んでいます。



本町では、バイオガスプラントを核とした地域循環型農業を推進しており、2017（平成 29）年には「しかおい水素ファーム」が開所されました。また、「自営線^{*1}ネットワーク等を活用した再生可能エネルギーの最大導入・活用事業」を進め、主要公共施設における BCP 対策^{*2}や CO₂排出大幅削減に向けて取り組んでいます。

さらに、2019（令和元）年には、環境省が提唱する「地域循環共生圏^{*3}（日本発の脱炭素化・SDGs 構想）」における「発展可能性の高い地域（十勝定住自立圏における核となる町）」に選定されました。

このようななか、今後は、地域循環共生圏や SDGs の理念を踏まえ、経済活動のあり方や、町民の意識やライフスタイルを環境保全の視点から見直し、自然と共生する持続可能な循環型の社会形成をめざし、希少で豊かな自然を次代に引き継いでいくことが求められています。



※1 大手電力会社（一般送配電事業者）以外の電気事業者が、自ら敷設した電線のことであり、
 ※2 災害や事故など不測の事態に、事業が継続できるように対応策をまとめておくことであり、
 ※3 各地域が美しい自然景観などの地域資源を最大限活用しながら、自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることをめざす考え方であります。



(5) 価値観や生活様式の多様化

我が国では、経済成長や人口増加などが右肩上がりであった時代が終わり、価値観やライフスタイルの多様化が進んでいます。情報化やグローバル化も相まって、性別や人種、民族や国籍、社会的地位、障がいの有無など様々な属性を持つ人達が社会を築いたり、交流する中で、多様性（ダイバーシティ）を認め合うことや、インクルージョン（持っている属性によって排除されることなく認め合い、一体となること）が重視されています。

本町においても、人口は減少する一方で、一人ひとりのライフスタイルや価値観は多様化し、海外国籍の町民も増えており、福祉や子育て、教育などで求めるニーズは多様化しています。

このようななか、個性と能力を発揮し、多様な生き方を選択・実践できる機会や環境を整えていくとともに、限られた予算や体制の中で、多様化していく行政ニーズにできるだけ応じていくことができるよう努めていくことが必要です。

(6) 地方行政に求められること

我が国では、2060年に1億人程度の人口を維持するという長期ビジョンの実現に向けて、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の見直しや一億総活躍社会をめざした取り組みなどを推進していますが、「地方から都市への若者の流出」と「出生率の低さ」という人口減少の要因は改善されず、急激な減少状況は続いています。

一方、高度経済成長期に建設された公共施設が老朽化し、地方自治体の財政運営の負担となっているなか、生産性・効率性の高いまちづくりをめざし、公共施設の集約・複合化などを促進しています。

本町においても、人口減少や社会経済の変化によって生まれる課題に町全体で取り組んでいくために、「鹿追町まちづくり基本条例」を制定し、まちづくりの情報発信に努めるとともに、住民からの声を集める機会や、住民と対話できる場をつくるなど、協働のまちづくりを進めています。

また、「公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設の更新・統廃合・長寿命化、最適な配置の実現などを総合的に考え、進めています。

このようななか、人口の規模が縮小する中で、本町の行財政運営を持続しながら、住み良いまちづくりをめざしていくにはどうあるべきかを、町民とともに考え、取り組んでいくことが必要です。

3 鹿追町のまちづくりの課題と可能性

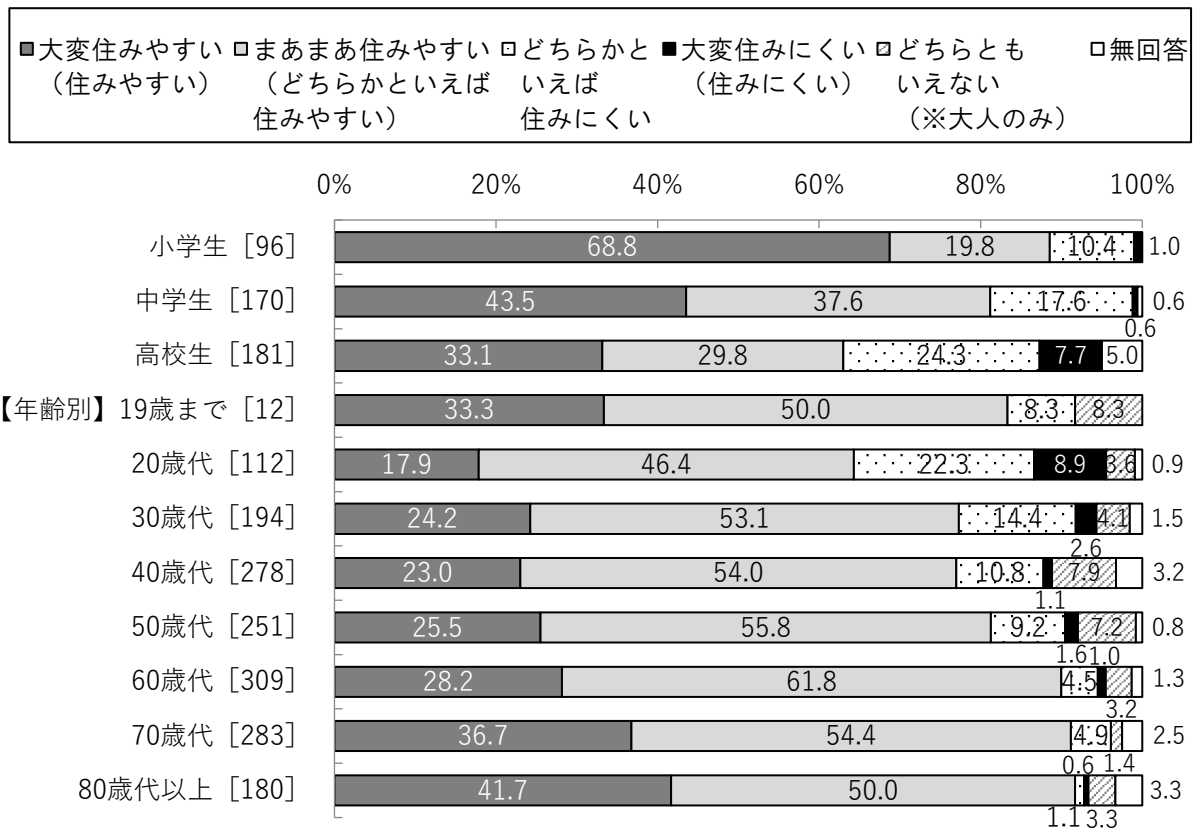
(1) だれもが「住みやすい」と思えるまちをめざす

鹿追町の「住みやすさ」について、小学生から大人まで、それぞれの年代に尋ねたところ、“大変住みやすい”という回答割合が最も高かったのは小学生でした。しかし年代が高まるにつれて評価は下がり、20歳代で最も低くなり、その後年代が高くなるにつれて高まっていくという傾向となりました。

子どもの頃は住み良いと思っていても、年を重ねるごとに住みにくさを感じるようになり、そのピークが若い世代にあると考えられ、若い世代の流出が多いのも、このような住みやすさへの意識の変化が関係していると思われます。

子どもからお年寄りまで、どの年代も住みやすいと思うまちづくりをめざし、年代ごとの意向やニーズを分析しながら、まちづくりを進めていくことが必要です。

鹿追町は住みやすいですか



※選択肢の () は小中高アンケートの選択肢、[] の数字は回答者数です。



(2) 一人ひとりの孤独や不安を解消する

全国的に、地域での交流や支え合いが減少し、核家族化が進む中、家族や地域で支え合うことができず、孤独感や不安を抱える人が増えています。

大都市に比べると、地域とのつながりが残っている本町においても、核家族やひとり暮らしの方が増えているなか、子育て中の家族や単身者、高齢者世帯などが、孤独を感じたり、不安を抱えることが増えていると思われます。

つながりや支え合いの大切さを町全体で再認識しながら、孤独や不安を抱えて悩んでいる人がいなくなるまちをめざしていくことが必要です。

特に高齢者は、移動することが難しくなることで外出する機会が減り、孤独化する傾向にあります。年を重ねても地域とのつながりを持てるようなまちをめざすことも重要です。

(3) 老朽化や災害対応をふまえた基盤づくり

全国で、公共施設の老朽化が一斉に進み、その対応が課題となっています。加えて、近年は自然災害が全国で多発しており、災害に強いまちの基盤づくりも課題となっています。

北海道では、これまで、台風や大雨などによる被害が比較的少ない状況でしたが、近年は道内で被害を受ける地域が増えており、防災に対する町民の意識も高まっています。

基盤整備は多くの時間と費用が必要ですが、町全体で緊急度や優先度を考えながら、まちづくり基盤の長寿命化や災害への対応（国土強靱化^{※1}）などを計画的に進めていくことが必要です。

(4) 資源を資産として活かす

本町は農業が基幹産業の町ですが、然別湖や美術館、乗馬ができる道の駅などの立ち寄りスポットがあるほか、十勝で唯一のジオパーク^{※2}（とち鹿追ジオパーク）としても認定されるなど、本町固有の観光資源が多くあります。現在も年間 70 万人を超える観光客が訪れていますが、「観光地・鹿追」としての認知度や集客力を、さらに高めていくことが期待されています。

地域経済を活性化するうえでも、観光は更なる展開が見込める分野であり、今ある観光資源を資産として運用し、雇用の拡大や交流人口の拡大に結びつけていくことが必要です。

※1 災害などから人命を守り、経済社会への被害が致命的なものにならず迅速に回復する「強さとしなやかさ」を備えた国をつくることです。

※2 「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」を組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球を学び、丸ごと楽しむことができる場所のことです。

第3章 めざす鹿追町の姿

1 鹿追町の将来像

1921（大正10）年に誕生した本町は、2020（令和2）年に開町100年を迎えました。多くの鹿追町民の知恵や努力によって、緑美しいこの町を守り育てて来ることができました。

人口構造や社会経済、地球環境など、今日、鹿追町を取り巻く環境は刻一刻と変化しており、様々な課題を乗り越えていくことが求められています。

第7期鹿追町総合計画では、これまでの総合計画の取り組みを引き継ぐとともに、これからも町民がお互いを思いやり、支え合う気持ち（愛情）を大切にしながら、一人ひとりの夢や笑顔があふれる鹿追町をめざし、次のような将来像とします。

愛・夢・笑顔 あふれる未来へ

～支え合うまち♡しかおい～

この将来像は、全町民を対象に行ったアンケート結果の内容を踏まえ、鹿追高校生など延べ200名以上の参加をいただいた「まちづくりワークショップ」にて提案され、策定会議や審議会にて議論されて決定されたものです。

「みんなが夢を持ち、元気に笑顔で過ごせるまちであってほしい」

「他者を思いやり、いたわる気持ちを大切にしたい」

「みんなが生き生きと暮らし、支え合える、次の100年を築いていきたい」

などの願いが込められています。

また、老若男女を問わず“愛情を持って支え合う”という気持ちをわかりやすく表現するために、誰もが親しみを感じる「♡」を添える提案をいただきました。

本計画を進めていく8年間、「愛・夢・笑顔 あふれる未来へ ～支え合うまち♡しかおい～」を将来像として掲げ、さらなる協働のまちづくりを進めていくこととします。



2 将来の指標

本町の人口は、国全体と同様に、減少傾向が続いています。

農業研修生・従事者の増大や移住者施策などにより、減少傾向は緩やかになっていますが、今後も少子高齢化の進展などにより、核家族化とともに年少人口の減少傾向が続くことが予想されます。

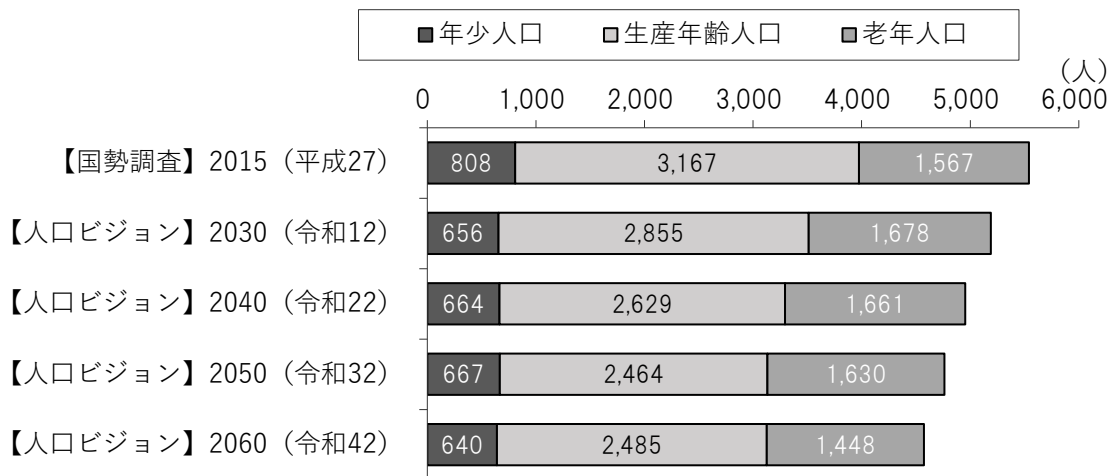
このようななか、「鹿追町人口ビジョン 2015」及び「鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少の抑制に努めているところです。

現状においては、人口ビジョンでめざす人口よりも減少が進んでいる状況ですが、本計画および本計画と一体的に進める「鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」によって、人口減少の抑制により一層力を入れて取り組むこととし、2030（令和 12）年における人口は 5,189 人を目標とします。

総人口および年齢 3 区分別人口の推移（資料：鹿追町人口ビジョン 2015）

	国勢調査	人口ビジョン			
	2015年 (平成27年)	2030年 (令和12年)	2040年 (令和22年)	2050年 (令和32年)	2060年 (令和42年)
総人口	5,542	5,189	4,954	4,761	4,573
年少人口	808	656	664	667	640
生産年齢人口	3,167	2,855	2,629	2,464	2,485
老年人口	1,567	1,678	1,661	1,630	1,448

年齢 3 区分別人口の推移（資料：鹿追町人口ビジョン 2015）



3 めざす方向

(1) 子育てを支え合い、多世代がつながり、心がふれあう福祉をめざして

- 医療と福祉、地域などが連携しながら、子ども、高齢者、障がいの有無、家族形態などに関わらず、誰もが健康に過ごせる取り組みを進めます。
- 「子どもは地域の宝」であることを町全体で共有し、子どもを生子、育てやすい環境を支え合い、切れ目のない子育て支援を実践します。
- 多岐に渡る福祉分野において、包括的な支援体制（地域包括ケアシステム※）を強化し、「支え手側」と「受け手側」という分け方ではなく、誰もが役割を持ち、助け合い、心がふれあう福祉をめざします。

基本計画での 項目	1 健康づくり	2 医療
	3 医療保険、介護保険	4 子育て支援
	5 障がい者福祉	6 高齢者福祉
	7 地域福祉	

(2) お互いの価値観を認め合い、確かな自分づくりを育む教育をめざして

- 「自己肯定感を高める教育」「他者との違いを認め価値観の相違を理解する教育」「課題解決能力を高める教育」の3つをめざす方向の柱として、自分を大切にすることを育み、他者との対話などを通して自分の考えを広げ深め、自ら問題を見出し、解決策を考え出す力を育む学校教育をめざします。
- 町民が生涯にわたって学び、豊かな人生を送ることができるよう、「いつでも、どこでも、なんでも」学ぶことができる学習環境を整え、学んだことをまちづくりに生かされる仕組みづくりや、「子ども」「大人」「高齢者」といった生涯各期で課題に対応した社会教育を進めます。

基本計画での 項目	1 学校教育	2 家庭教育
	3 学習活動（少年・青年・成人・高齢者）	
	4 学習活動（公民館分館）	
	5 芸術文化	
	6 芸術文化（神田日勝記念美術館・文化財）	
	7 スポーツ	8 図書館、読書

※可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができることを目的とした、地域の包括的な支援・サービス提供体制です。



(3) 「ひと・もの・こと」がつながり、豊かで魅力的な産業をめざして

- 既存の産業や資源、人材やサービス（こと）が相互につながり、新たなビジネスや雇用の場が増えるよう、豊かで魅力的な産業をめざします。
- 基幹産業である農業では、引き続き農業基盤整備を推進するとともに、近年の大規模化に対応しつつ、ICT（情報通信技術）を活用した「スマート農業」や家畜伝染病予防対策などを強化します。
- 観光では、新たな価値であるジオパーク*を核としながら、積極的な情報発信などの施策を実施し、町内の商工業などに経済循環を促す仕組みづくりに努めます。

基本計画での 項目	1 農業（経営・基盤整備）		
	2 農業（安心・安全な農業）		
	3 農業（持続可能な農業）		
	4 林業	5 商工業	
	6 水産業	7 観光	8 ジオパーク

(4) 地域がつながり、環境を守り、安心して暮らせるまちをめざして

- 町民の安全な暮らしに対する意識を高めながら、地震などの自然災害、交通事故や犯罪などから、町民の命や財産を守る対策を進め、安心して生活できる基盤づくりを進めます。
- 再生可能エネルギーの有効活用など、「環境に配慮したまちづくり」を進めます。
- 交通網や情報通信基盤など、町民生活の利便性向上や地域経済の活性化に欠かせない基盤づくりを促進します。

基本計画での 項目	1 エネルギー	2 土地利用
	3 花、公園	4 環境美化、公害、畜犬
	5 ごみ処理、リサイクル	
	6 墓地、葬斎場	7 住宅
	8 水道、下水道	9 防災
	10 交通安全、防犯	11 消防、救急
	12 公共交通	13 道路
	14 情報通信	15 労働力の確保

*「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」を組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球を学び、丸ごと楽しむことができる場所のことです。

(5) 共に考え、共に創るまちをめざして

- 本町は小さな町ですが、町民相互の顔が見え、理解し合える、小さな町だからこそそのコミュニティづくりに努めます。また、地域がつながり、「自助、共助、公助」を実践するまちをめざします。
- 多様なテーマ・主体による交流や移住・定住対策、瓜幕地域の特性を活かした振興、自衛隊との連携強化などを進め、地方創生の柱となる「人口減少対策」を講じ、地域の活性化を図ります。
- 「鹿追町まちづくり基本条例」の理念に基づき、まちづくりの情報を町民と共有するとともに、あらゆる機会に町民の参加を促し、互いに知恵と力を出し合いながらまちづくりを進めます。

基本計画での 項目	1 交流	2 コミュニティ
	3 男女共同参画	4 移住、定住
	5 瓜幕地域の振興	6 自衛隊
	7 行政運営	8 財政運営



4 計画の体系

基本構想

将来像

めざす方向

愛・夢・笑顔
あふれる未来へ
く 支え合うまち ♡ しかおい く

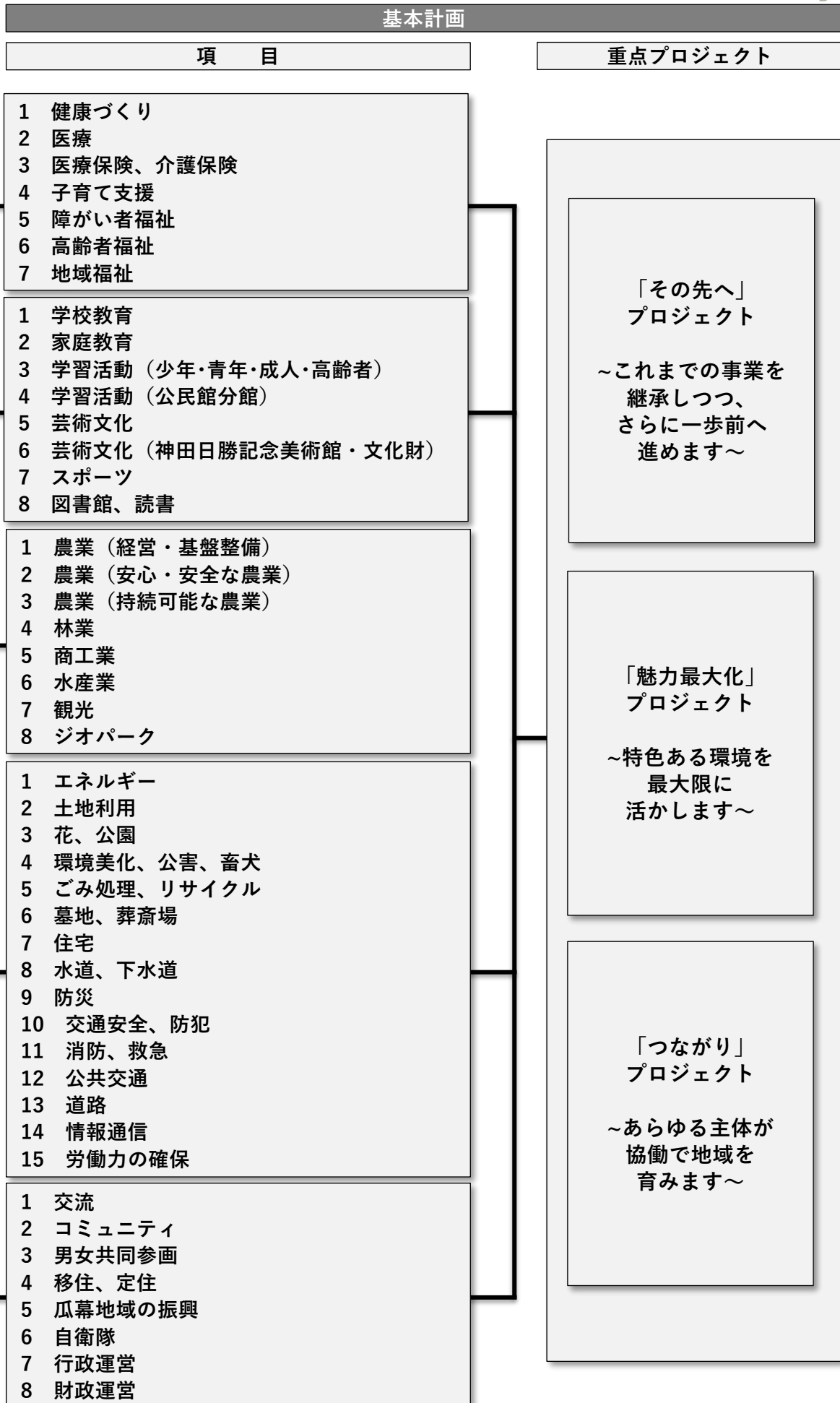
子育てを支え合い、多世代がつながり、心がふれあう福祉をめざして

お互いの価値観を認め合い、確かな自分づくりを育む教育をめざして

「ひと・もの・こと」がつながり、豊かで魅力的な産業をめざして

地域がつながり、環境を守り、安心して暮らせるまちをめざして

共に考え、共に創るまちをめざして





Ⅱ 基本計画





重点プロジェクト

重点プロジェクトとは、めざす将来像を達成していくために、先導的な役割を果たす施策のことで、前期・後期「4年毎」に設定します。

本町の取り巻く環境や課題などを踏まえて、以下の3つの重点プロジェクトを設定しました。

なお、これらの重点プロジェクトは、基本計画の施策として位置づけるとともに、PDCA サイクル※により評価し、町のホームページなどで公表します。

1 「その先へ」プロジェクト

*【 】の内容は、基本計画の掲載場所を示しています。

～これまでの事業を継承しつつ、さらに一步前へ進めます～

本町は、2020（令和2）年に開町100年を迎えましたが、次の100年「その先」を見据えて、鹿追町が鹿追町であり続けるために、以下の施策を実施します。

- 子育て世代の包括的支援 【子育て支援_p 40】
- 自然体験留学制度の充実 【学校教育_p 48】
- 農業基盤整備事業の推進 【農業（経営・基盤整備）_p 70】
- バイオガスプラントの有効活用・推進 【農業（持続可能な農業）_p 76】
- 町内企業への支援 【商工業_p 82】
- 国立公園エリア施設の活用推進及び誘客施策の展開 【観光_p 86】
- 新たな再生可能エネルギーの有効活用 【エネルギー_p 90】
- 光回線など高速通信に関する調査検討及び整備促進 【情報通信_p 118】
- 行財政改革の推進 【財政運営_p 136】

※計画（Plan）を実行（Do）し、結果を評価（Check）し、改善（Action）していくことを繰り返す（サイクル）ということです。

2 「魅力最大化」プロジェクト

～特色ある環境を最大限に活かします～

本計画策定時に実施した町民アンケート結果から、多くの町民が「美しい自然環境（61.8%）」、「安全で美味しい農畜産物（46.8%）」、「幼小中高一貫教育など特色ある教育（48.9%）」について、誇りを感じていることがわかりました。

これらを守り・最大化するために、以下の施策を実施します。

<美しい自然環境>

- ジオパーク^{※1}の地域住民への浸透 【ジオパーク_p 88】
- 花による美しいまちと豊かな景観づくり 【花、公園_p 94】

<安全で美味しい農畜産物>

- 消費者などのニーズにかなった体制の確立 【農業（安心・安全な農業）_p 74】
- 安心・安全な農畜産物の需要拡大 【農業（安心・安全な農業）_p 74】

<特色のある教育関係>

- 国際理解を学ぶ英語教育の充実 【学校教育_p 48】
- 幼少中高一貫教育による深い学びの実践 【学校教育_p 50】

3 「つながり」プロジェクト

～あらゆる主体が協働で地域を育みます～

まちづくりワークショップの参加者から、町の将来像やテーマ・めざすまちの方向などに取り入れるべき「キーワード」を募集したところ、最も多かったのが「つながり」でした。

あらゆるものが「つながる」ことにより、更なる本町の発展をめざすという趣旨を踏まえて、以下の施策を実施します。

- 地域包括ケアシステム^{※2}を推進する体制の充実 【高齢者福祉_p 44】
- 道の駅しかおい・うりまく、観光協会特産品部会との連携 【商工業_p 82】
- 防災意識の普及と防災体制の充実強化 【防災_p 106】
- 国際姉妹都市との交流促進 【交流_p 122】
- 国内友好都市等との交流促進 【交流_p 122】
- 町民の町政参加機会の拡充 【コミュニティ_p 124】
- 広報広聴活動の拡充 【コミュニティ_p 124】
- 住民自治組織の育成 【コミュニティ_p 124】
- 他市町村との情報共有など広域行政の連携強化 【行政運営_p 134】

※1 「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」を組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球を学び、丸ごと楽しむことができる場所のことです。

※2 可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができることを目的とした、地域の包括的な支援・サービス提供体制です。



Ⅲ 資料編

1 策定経過

	2019年6月			7月			8月			9月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
審議会（15名） ・町内の公共的団体の役員、有識者、公募		公募			7/17 ① 委嘱 諮問								
策定会議（22名） ・専門部会長、部会長代理、策定委員会委員		公募			7/17 ① 委嘱								
専門部会（31名） ・部門：総務、福祉、経済、教育 ・町内の公共的団体の役員、有識者、公募、無作為抽出							8/2 総務 ①		8/28 総務 ②			9/25 総務 ③	
							8/5 福祉 ①				9/19 福祉 ②		
							8/7 経済 ①			9/2 経済 ②		9/20 経済 ③	
						7/31 教育 ①			8/23 教育 ②			9/26 教育 ③	
策定委員会（22名） ・委員長：副町長 ・副委員長：教育長 ・部門：総務、福祉、経済、教育 ①総務：総務課、町民課、企画財政課、瓜幕支所、議会事務局、消防署、総務課、総務課（主幹：出納） ②福祉：福祉課、子育てスマイル課、国保病院、総務課（主幹） ③経済：農業振興課、商工観光課、建設水道課、農業委員会、ジオパーク推進室、農業振興課（主幹） ④教育：学校教育課、社会教育課	6/7 ①		6/24 ②									9/30 ③	
適宜、メールにて情報共有、照会													
まちづくりワークショップ ・部門：総務、福祉、経済、教育 ・策定会議委員、公募、無作為抽出							広報 折込		8/20 51名			9/12 62名	
各種アンケート ・町民、小学生、中学生、高校生 ・対象人数：4,844人				配布			回収					結果 概要	報告書 完成
議会への進捗報告、提案	6/7 ①							8/7 ②		8/30 ③			

10月			11月			12月			2020年1月			2月			3月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	10/16 ② 審議										1/22 ③ 審議	2/5 ④ 答申					
10/2 ②									1/10 ③								
		10/24 総務 ④									1/21 総務 ⑤						
				11/7 教育 ④				12/26 経済 ④		12/24 教育 ⑤							
		10/30 ④															
適宜、メールにて情報共有、照会																	
				11/13 65名 高校生 参加				12/12 45名 高校生 参加									
		結果を 広報に 掲載															
		結果を町のホームページに掲載															
	10/11 ④				11/26 ⑤	12/4 ⑥							2/17 ⑦			3/5 ⑧ 提案	



2 総合計画審議会名簿

氏名	役職など	選出区分
安部 克裕	会長	前鹿追町副町長
石田 秀俊	副会長	鹿追町商工会長
木幡 浩喜	委員	JA 鹿追町代表理事組合長
白川 悦子	委員	鹿追町社会福祉協議会長
坂本 昌彦	委員	鹿追町観光協会長
馬場 貴明	委員	一般公募
木幡 裕人	委員	一般公募
佐々木 和男	委員	総務部会長（消防団長）
井出 健一	委員	総務部会長代理（うりまく道の駅会長）
山本 進	委員	福祉部会長（しゃくなげ荘施設長）
鳩 彰子	委員	福祉部会長代理（ボランティア団体連絡協議会長）
上嶋 隆夫	委員	経済部会長（鹿追町商工会副会長）
櫻井 文彦	委員	経済部会長代理（JA 鹿追町常務理事）
小野 正一	委員	教育部会長（鹿追小学校長）
神谷 秀敏	委員	教育部会長代理（体育連盟理事長）
臼井 あや子	オブザーバー	鹿追町教育委員会教育長職務代理者
菊池 輝夫	オブザーバー	鹿追町農業委員会会長
仙石 聡	オブザーバー	帯広信用金庫鹿追支店長
北畑 友紀	オブザーバー	連合北海道鹿追地区連合会長
和田 範能	オブザーバー	北海道新聞社帯広支社営業部長
丹羽 恭太	オブザーバー	十勝毎日新聞社新得支局長
鳥井 慎一	オブザーバー	十勝総合振興局地域創生部長



3 総合計画策定会議名簿

議長	上 嶋 隆 夫
議長職務代理	山 本 進

部 会	氏 名	役 職	選出区分
総務専門部会	佐々木 和 男	部会長	消防団長
	井 出 健 一	部会長代理	うりまく道の駅会長
	高 橋 征 士		選挙管理委員長
	森 住 松 夫		防犯協会会長
	三反崎 里 香		ひらめきプロジェクト実行委員会代表
	林 正 信		議会議員定数・報酬及びあり方等審議会会長
	岡 田 尚 悟		無作為抽出選出
福祉専門部会	山 本 進	部会長	しゃくなげ荘施設長
	鳩 彰 子	部会長代理	ボランティア団体連絡協議会長
	石 田 麻 耶		子ども園父母の会長
	鈴 木 隆		民生委員児童委員協議会長
	中 川 まゆみ		居宅介護支援事業所管理者
	松 山 なつむ		訪問看護ステーション統括所長
	高 橋 里衣子		無作為抽出選出
	下 山 まどか		無作為抽出選出
経済専門部会	上 嶋 隆 夫	部会長	鹿追町商工会副会長
	櫻 井 文 彦	部会長代理	JA 鹿追町常務理事
	窪 田 秀 俊		花と芝生の町づくり推進協議会長
	松 本 宏 樹		ジオパーク推進協議会幹事長
	高 野 恵		JA 鹿追町女性部長
	清 水 智 久		農業委員会農地部会長
	小 野 豊		一般公募
	清 水 陽 介		無作為抽出選出
教育専門部会	小 野 正 一	部会長	鹿追小学校長
	神 谷 秀 敏	部会長代理	体育連盟理事長
	俵 谷 俊 彦		鹿追高等学校長
	大 下 洋 美		社会教育副委員長
	太 田 広 光		鹿追中学校 PTA 会長
	中 谷 桃 恵		社会教育委員
	金 子 孝 伸		審議会公募枠の抽選漏れ
	清 水 真 弓		無作為抽出選出



4 諮問・答申

諮 問

鹿追町は、平成 23 年度を始期とする「第 6 期鹿追町総合計画」を策定し、「生きて（経済の発展）生きる（福祉の増進）まちに」を将来像とし、バイオマスによる資源循環型農業、豊かな自然や多様な観光資源・施設等を活かした交流拠点事業、幼小中高一貫教育による特色ある教育プログラム等、「農業」・「観光」・「教育」を 3 本柱として発展してまいりました。

この間、気候変動等による災害の増加、人口減少時代の到来、少子高齢化の急速な進行、東京への一極集中等、社会を取り巻く環境は激変しております。

また、平成の時代が幕を下ろし、「明日への希望と共に、日本人一人ひとりが大きな花を咲かせる」との願いが込められた「令和」という新しい時代も始まりました。

本町は、令和 2 年に「開町 100 年」を迎えます。新たな時代とともに、複雑・多様化する課題へ対応するため、町民と行政がまちづくりの将来像を共有し、ともに知恵を出し合いながら「次の 100 年」への飛躍に向けたまちづくりを進めていきたいと考えております。

このような状況を踏まえ、総合的かつ戦略的な行政運営を図るため、「第 7 期鹿追町総合計画の策定」並びに「第 2 期鹿追町まち・ひと・しごと・創生総合戦略の策定」について、鹿追町総合計画審議会条例第 2 条等に基づき、諮問致します。

令和元年 7 月 17 日

鹿 追 町 総 合 計 画 審 議 会 会 長
鹿 追 町 ま ち ・ ひ と ・ し ご と 創 生 推 進 会 議 会 長 様

鹿追町長 喜 井 知 己



令和2年2月5日

鹿追町長 喜 井 知 己 様

鹿追町総合計画審議会
鹿追町まち・ひと・しごと創生推進会議
会 長 安 部 克 裕

第7期鹿追町総合計画及び第2期鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略
について（答申）

令和元年7月17日付けで諮問のあった第7期鹿追町総合計画及び第2期鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について、次の意見を付して答申いたします。

記

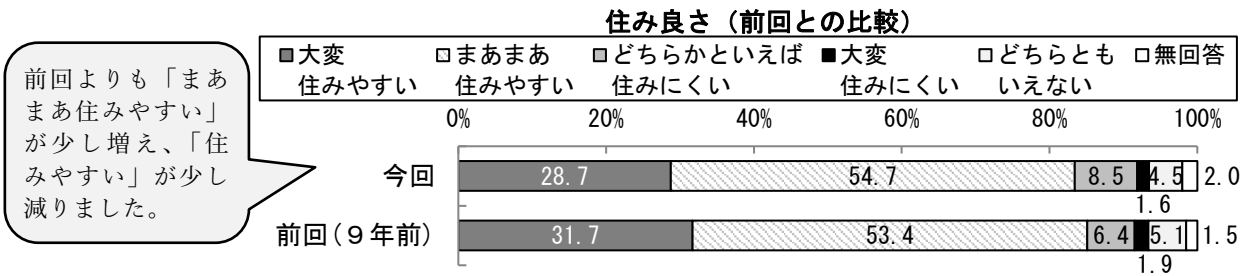
- 1 本計画は新たなまちづくりの指針になるものです。様々な手段と機会を通じて周知に努め、さらなる「協働のまちづくり」を推進するようお願いいたします。
- 2 本計画の策定にあたっては、多くの町民の皆様から意見・提言などがありました。今後、計画の実現に向けて施策や事業を実施する際には、これらの意見・提言などを十分に踏まえて取り組むようお願いいたします。
- 3 本計画について、全庁的な理解を徹底し、めざす将来像を達成するための効果的且つ効率的な行政運営に努めるようお願いいたします。
- 4 本計画の達成状況などについては、広報やホームページなどを通じて、町民にわかりやすく公表するようお願いいたします。



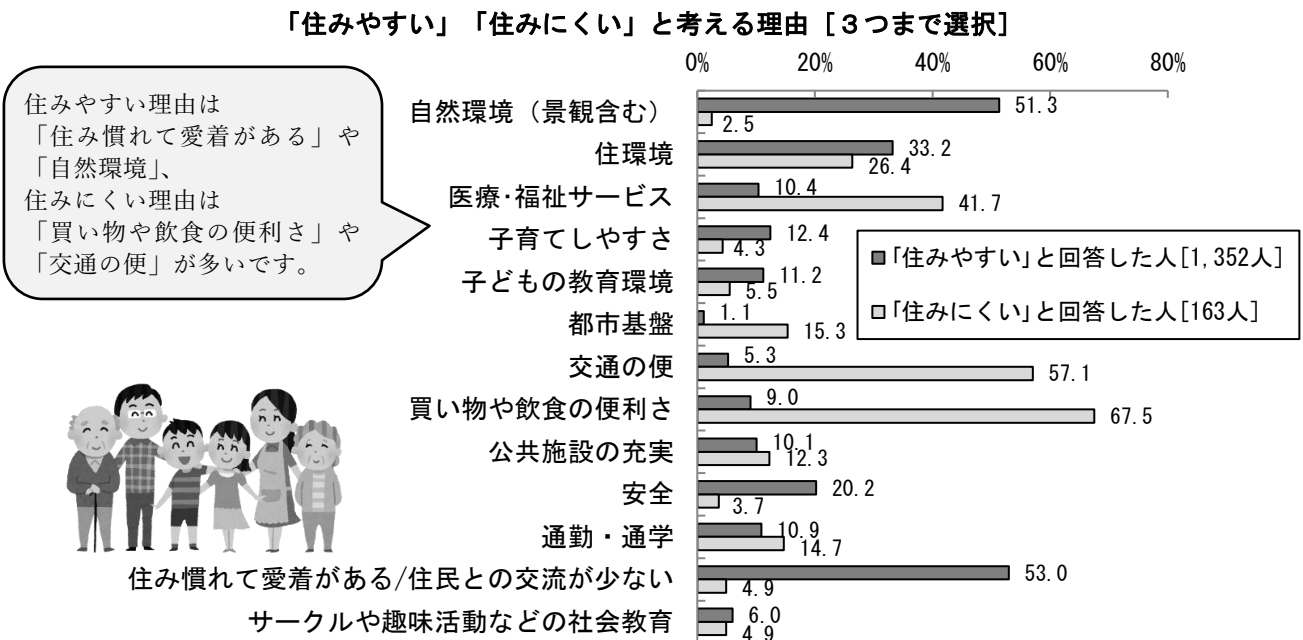
5 町民アンケート結果

本計画を策定するにあたって、18歳以上の住民 4,406 人にアンケートを配布し、1,621 人の方から回答を頂きました。

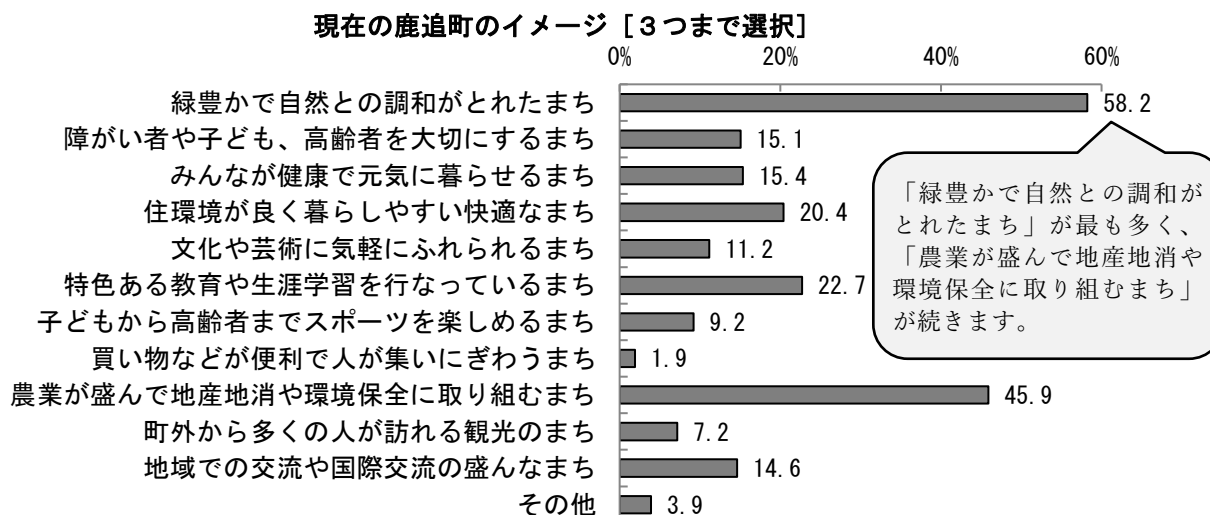
現在お住まいの地域は、住みやすいところだと感じますか。



「住みやすい」「住みにくい」と考える理由は何ですか。



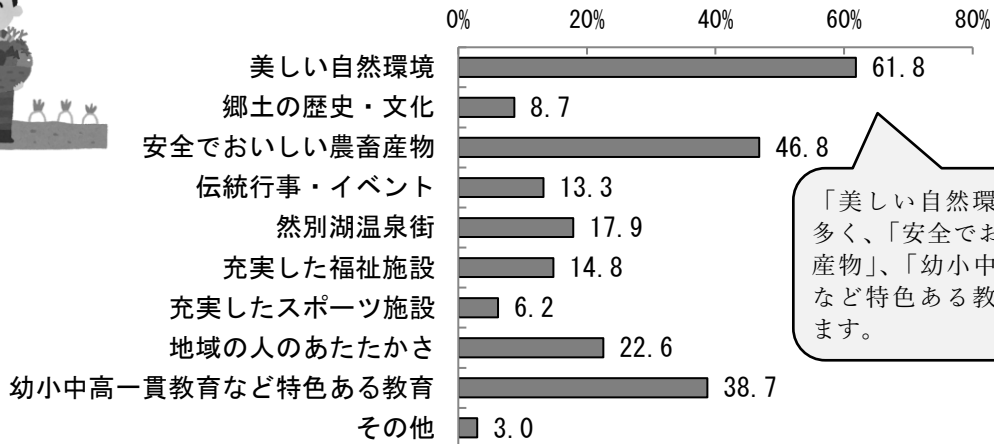
現在の鹿追町はどのようなイメージですか。



鹿追町で自慢できるものは何だとお考えですか。



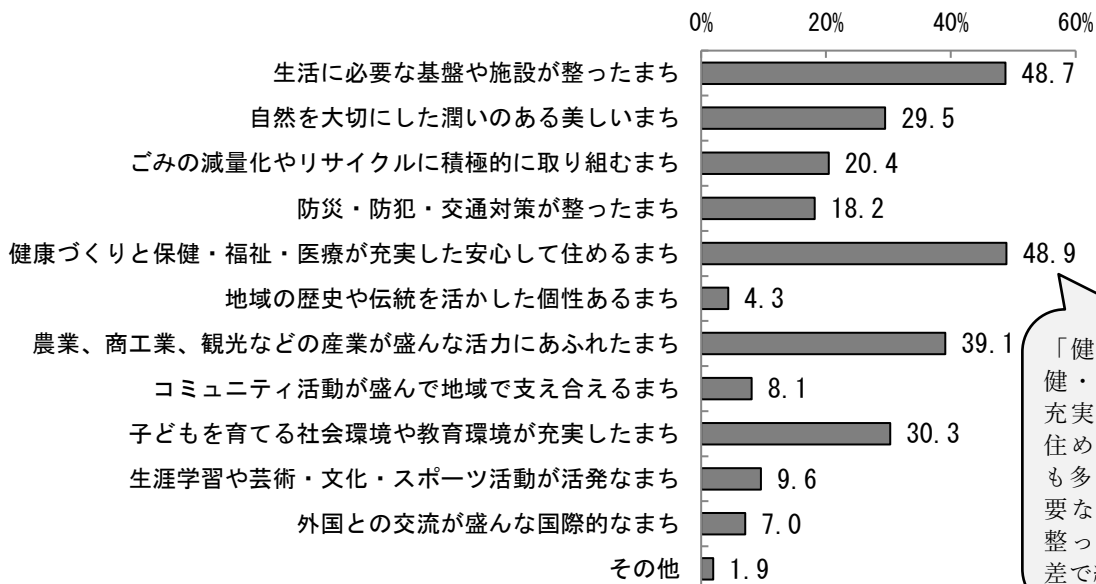
鹿追町で自慢できるもの [3つまで選択]



「美しい自然環境」が最も多く、「安全でおいしい農畜産物」、「幼小中高一貫教育など特色ある教育」と続きます。

鹿追町の将来像としてどのような町を望みますか。

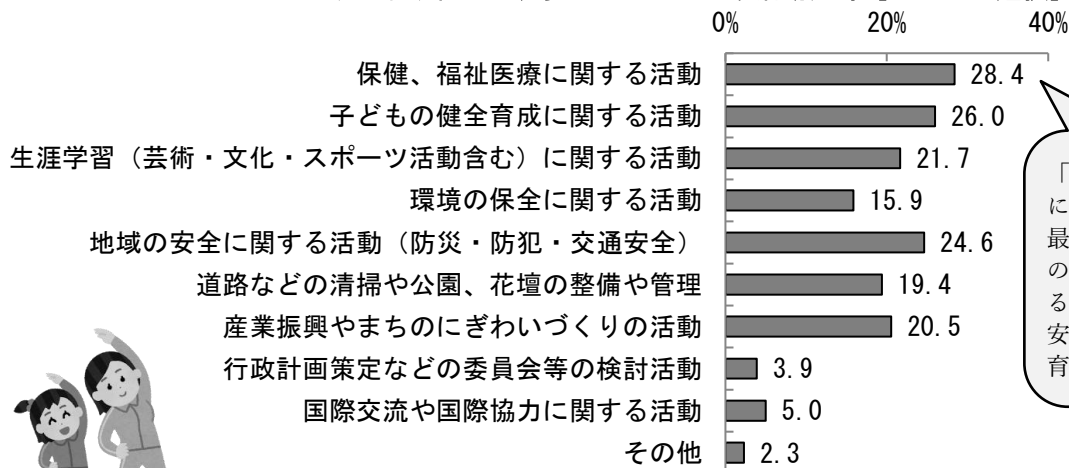
鹿追町の将来像としてどのような町を望むか [3つまで選択]



「健康づくりと保健・福祉・医療が充実した安心して住めるまち」が最も多く、「生活に必要な基盤や施設が整ったまち」が僅差で続きます。

まちづくりの取り組みで、今後どのような取り組みに参加したいと考えますか。

まちづくりの取り組みで、参加したいと思う活動分野 [2つまで選択]

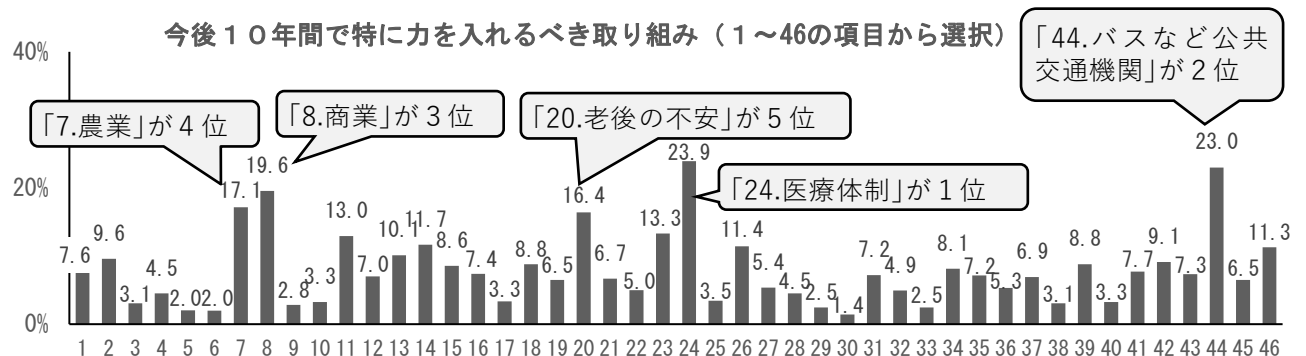
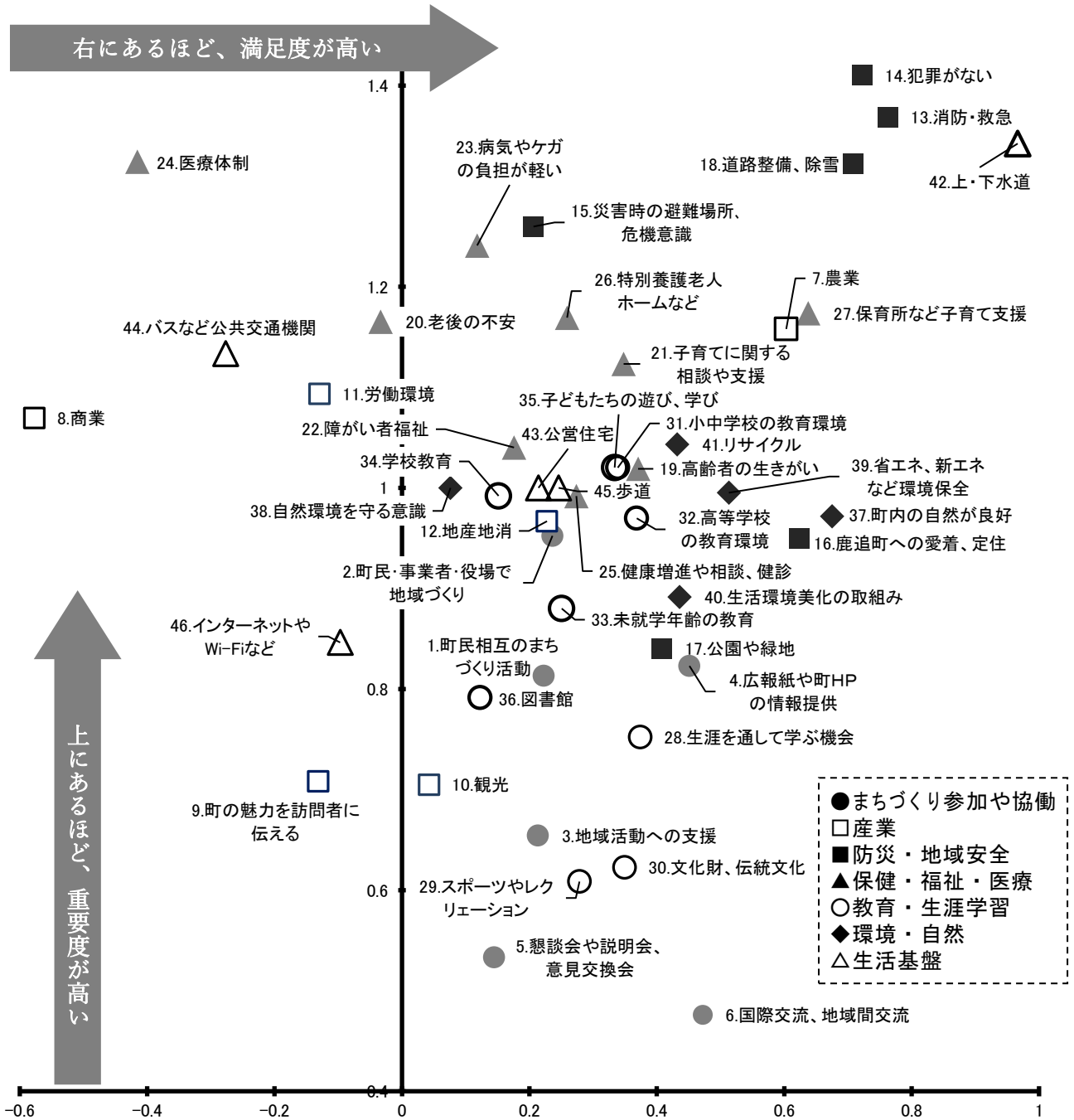


「保健、福祉医療に関する活動」が最も多く、「子どもの健全育成に関する活動」、「地域の安全に関する活動」と続きます。



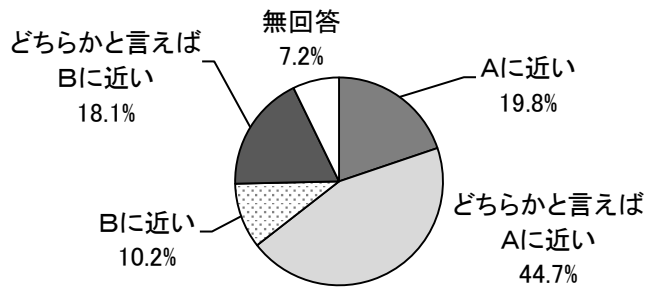
次の項目について、現状にどのくらい満足し、今後どのくらい重要とお考えですか。

満足度（満足・やや満足・普通・あまり満足していない・満足していない）、重要度（重要・やや重要・普通・あまり重要ではない・重要ではない）の結果を、ひとつの図に示しました。

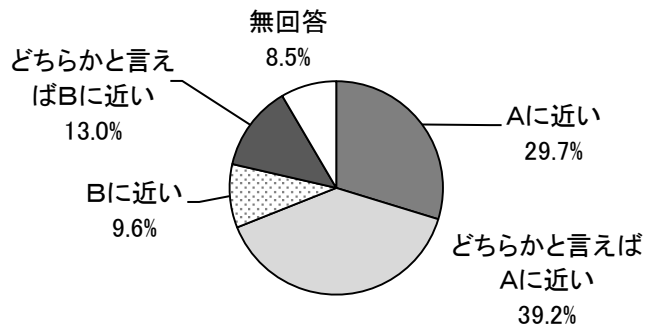


鹿追町が提供する町民サービスの水準についてどのようにお考えですか。

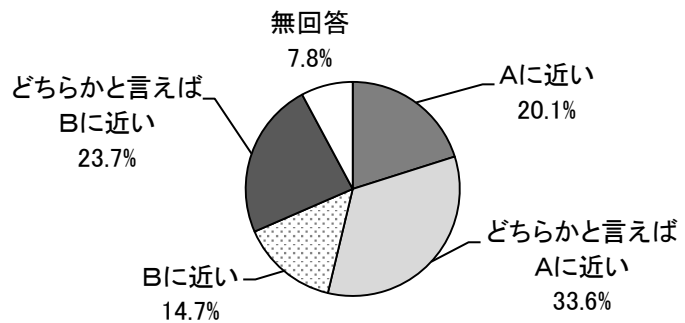
- A : サービス水準を維持するためには、自己負担が増加しても止むを得ない
- B : 自己負担はできないので、サービスの水準が低下しても止むを得ない



- A : サービス水準に高低をつける場合は、施策の違い（種類・分野など）で優先度をつけるべきだ
- B : サービスの水準の高低は、全ての施策にわたって一律に行うべきだ

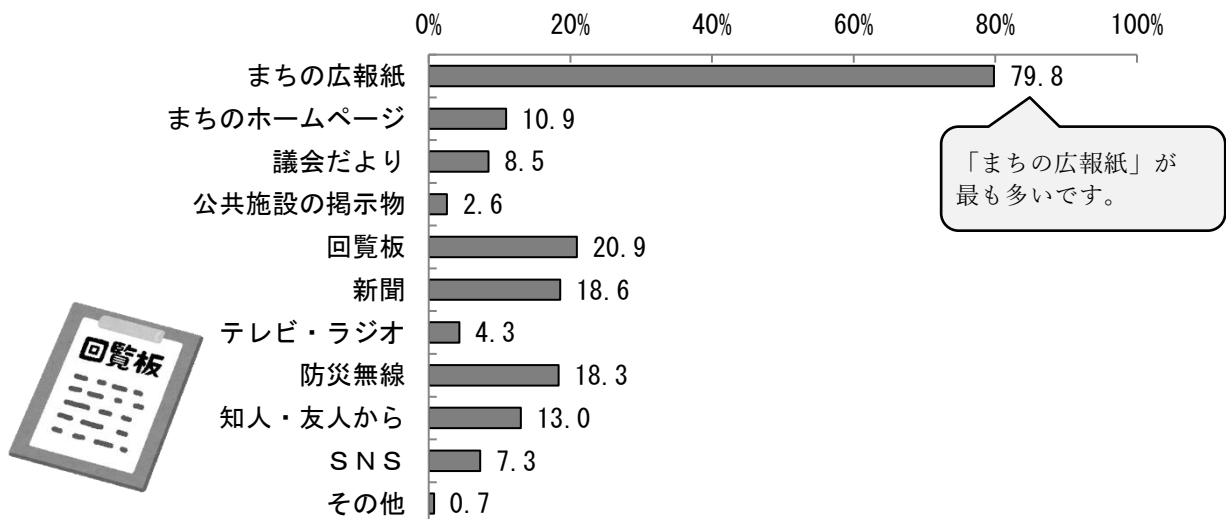


- A : 行政と町民が協働して役割分担をし、ともにサービスを担うのが望ましい
- B : 町民が協働でサービスを担うのは、仕事や生活があるので難しい



鹿追町に関する情報を得るのに、あなたがよく利用する手段は何ですか。

鹿追町に関する情報を得るのによく利用する手段【2つまで選択】





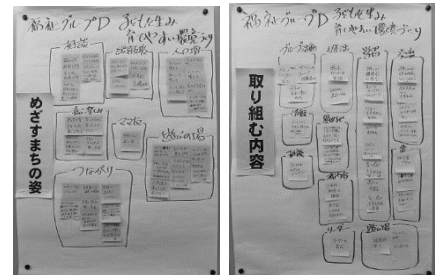
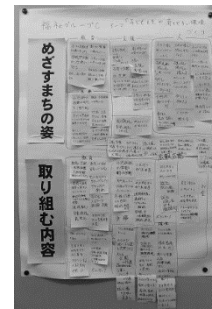
6 まちづくりワークショップ開催まとめ

本計画を策定するにあたって、鹿追町の将来のあり方、その将来に向けてどのように取り組んでいくかなどを、グループに分かれて話し合い、まとめる「まちづくりワークショップ」を開催しました。

第1回目（2019年8月20日開催）

まず、「総務」「福祉」「経済」「教育」の4つの分野ごとに設定された“話し合ってほしいテーマ候補”の中からテーマを選んでもらい、8グループでワークショップを行いました。最後は4グループに発表してもらいました。

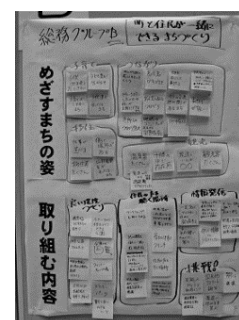
- 総務 A：若い世代がもっと参加しやすい地域づくり
- 総務 B：持続可能な移住や定住の取り組み
- 福祉 C：子どもを生み、育てやすい環境づくり
- 福祉 D：子どもを生み、育てやすい環境づくり
- 経済 E：日常の買物に困らないまちづくり
- 経済 F：来訪者により地域が潤う商工観光
- 教育 G：鹿追町らしい「夢の学校」づくり
- 教育 H：未来を担う子どもたちの目指す姿



第2回目（2019年9月12日開催）

前回に引き続き「総務」「福祉」「経済」「教育」の4つの分野ごとに設定したテーマの中から選んでもらい、11グループでワークショップを行いました。

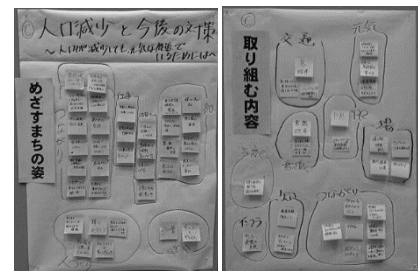
- 総務 A：町と住民と一緒にできるまちづくり
- 総務 B：町と住民と一緒にできるまちづくり
- 総務 C：家庭でできる自然災害への備え
- 福祉 D：高齢者が安心して暮らし続けられるまちづくり
- 福祉 F：生涯安心して暮らすことができる地域
- 経済 G：農業を支える人の確保
- 経済 H：農業を支える人の確保
- 経済 I：「鹿追町のそば産業」（次代へ継承するために）
- 総務 J：少年団、部活動を地域で応援できること
教員の働き方改革（先生の役割とは）
- 教育 K：教員の働き方改革（先生の役割とは）
- 教育 L：少年団、部活動を地域で応援できること



第3回目（2019年11月13日開催）

第3回目からは自主的に参加を希望してくれた鹿追高校生のみなさんも加わり、高校生から頂いたテーマ案をもとに、9グループでワークショップを行いました。最後は3グループに発表してもらいました。

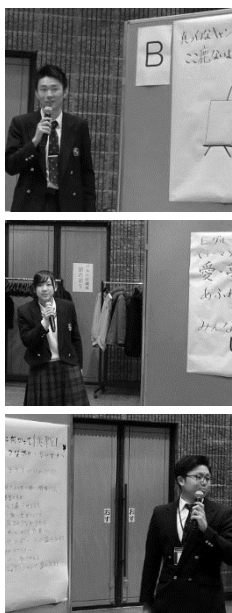
- 総務 A：鹿追近代化計画！
- 総務 B：交通機関の便利さを高めるには
- 福祉 C：人口減少と今後の対策
- 福祉 D：交通機関の便利さを高めるには
- 経済 E：人口減少と今後の対策
- 経済 F：鹿追町に戻ってきてもらえるまちづくり
- 経済 G：「鹿追町って魅力的だな」と思われるためには
- 教育 H：鹿追町に戻ってきてもらえるまちづくり
- 教育 I：ユニバーサルデザインを増やすには



第4回目（2019年12月12日開催）

最終回では「まちの将来像」について、鹿追高校生のみなさんと一緒に考えました。各グループ発表の後、「1人3票」で投票を行いました。

結果は僅差で接戦でしたが、Eグループの「愛・夢・笑顔 あふれる未来へ みんなのまち しかおい」がトップになりました。



		得票
A	幸せに向かって挑戦！～つながり・思いやり～ 鹿追で生きていいんだ！！	22
B	真っ白なキャンパス自ら描こう ここ鹿ないよ 夢追町	22
C	人と大地が紡ぐ豊かな未来へ ～支え合うまち しかおい～	24
D	人・世代・地域がつながる 輝く しかおい	20
E	愛・夢・笑顔 あふれる未来へ みんなのまち♡しかおい	25
F	人と自然の共生 夢を育む郷土愛	16



第7期鹿追町総合計画

令和2年3月

北海道 鹿追町

〒081-0292 鹿追町東町1丁目15番地1

発行 鹿追町役場 企画財政課